

第 8 期 小金井市地域自立支援協議会 部会活動報告

協議事項	(1) 障害者計画策定に係る課題の確認について (2) 「障害者（児）・家族防災のパンフレット」について
開催日等	令和 5 年 7 月 1 2 日（水）
部会名・記録担当委員名	社会参加・就労支援部会・障害福祉係 加藤
<p>【協議事項(1) 障害者計画策定に係る課題の確認について】</p> <p>① 資料 1 - 1 課題整理シート「1 市民一人ひとりの理解と交流を育む意識づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差別解消法などアンケート結果を見ても認知度が低く、理解促進は簡単ではない。 ・ある福祉系の学生へ採用活動のための（グループホームの）職場案内の動画を見せたところ、そのような専門学生ですら「福祉」と聞いて想定するのは高齢者福祉などであり、障がい者に対するイメージを持っていないという印象を受けた。教育の中で知識を得ても、生活の中で接点を持ち体験する機会が乏しいと感じる。 ・健常者と障がいの当事者が交わる空間、実体験が共生社会の実現においてとても重要であることを骨子案に含めたい。 <p>② 資料 1 - 2 課題整理シート「2 障がいのある人の社会参加に向けた自立の基盤づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共に教育を受けることが望ましいとされる一方で、分離教育を支持する意見もアンケート結果の中で目立っており、障がい理解の難しさを感じる。 ・分断されている現状を段階的に変えていくべき。 ・社会参加については経済的自立に固執するのではなく、極端な例で生活保護を受けていたとしても、社会との接点を持つことが重要。 ・最大の課題である工賃の向上についても、障がい者が提供する就労サービス、製品が「障がい者だから」という前提ではなく、一般的に触れる機会を増やせば、商品として認められる価値を持つこともある。工賃向上の可能性につながる。 ・あらゆるサービス、支援と全くつながっていない障がい者の存在も確実にある。高齢家族が抱える障がい者など、医療にもかかわらず今まで社会との接点がほとんどなかったような方々が、いきなり地域移行、支援といっても地域の体制が用意できていない。 ・社会の中で共に暮らす、そのひとのできることで社会と接点を持つということを「自立」の在り方として認識したい。 <p>③ 資料 1 - 3 課題整理シート「3 障がいのある人が安心して暮らしていくための仕組みづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービスはあっても手続きをサポートする者がいないケースがある。手続き支援の役割が宙に浮くことでサービスに繋がれない、社会参加できないというケースはままある。後見人を付けたり、社会保険労務士などの士業に依頼する方法もあるが、 	

費用負担できない場合はやらざるを得ないと判断した誰かが業務の範疇を超えて現場で担っているという実態がある。

・申請する側の手続き支援の充実と、受理する側が手続きしやすい制度を整える、双方の充実が重要である。

④ 資料1-4 課題整理シート 「4 誰もが気持ちよく共に暮らせる環境づくり」

・ただ住居を確保するのではなく、当事者の生活が持続可能な環境を整備したうえで地域に戻すことが重要。退院後に住まいの確保には至ったが外出もままならないというケースもある。

・災害時の対策など、計画やマニュアルの整備は必要だが、実際はマニュアル通りに進むことはなく、現場の知恵の出し合いとなる。だからといって計画やマニュアルが不要ということはなく、予め非常時の指揮命令系統の確認等、現場が動くための安心材料になる。

【協議事項(2) 「障害者（児）・家族防災のパンフレット」について】

・スマートフォンの利用による対策の案内が視覚障がいのある当事者にとってどのような影響があるかは視覚障がい者の会などに意見を聴いてみると良い。

以上

【次回の開催日程】

令和5年8月23日（水）午後5時 全体会